



田迎南校区 住民安心メール
 あなたもご登録ください！
 住民参加型連絡システム

警察・消防、自治体と連携し、緊急情報を迅速に的確に配信します。
 田迎南校区全域で子どもやお年寄りを守りましょう。
 情報の共有化で犯罪やトラブルのない校区をみんなで目指しましょう。

登録者全員に
 一斉送信！

- 災害時の緊急連絡
- 防犯・防災に関する情報
- 暮らしの情報
- 子どもの見守り情報
- 徘徊老人捜索情報
- イベント情報

田迎南校区住民安心メール
 登録方法は裏面をご覧ください



令和5年度(2023年度)版 地域防災活動の優良事例集



水害に備えましょう！

向山校区は水害が心配



雨や台風の進路に注意！

向山校区で雨が降ってなくても、同様に大雨が降ると、2〜3時間で向山校区の白川は増水します。
 増水の様子を見に行くのは危険です。

冠水した道路を歩くのは危険！
 水深が15 cmほどでも流れが強いと歩けません。マンホールのふたが水圧ではずれている場合もあります。

新型コロナウイルス対策も！
 災害時の非常持ち出し袋に、マスクや体温計、消毒液（シート）なども、自分で用意した方が安心です。

できるだけ早く安全な避難先へ！

- ①自宅（2階以上の部屋へ）
- ②安全な親せきや知人宅・ホテルなど
- ③熊本市が風水害時に指定している自主避難先で、向山校区に近いのは、五福公民館・大江公民館

※古い木造家は浸水の状況によっては、2階以上でも危険なこともあります。
 水害時に向山小や江南中が緊急避難場所として開くのは、③の五福公民館などの後です。体育館や校舎の2階以上などが開かれても、新型コロナウイルス感染の心配もあり、熊本地震の時のようにたくさんの方は避難できません。できるだけ、①自宅2階や②親せき宅などの安全な場所に避難することを優先してください。

熊本市が発令する新しい警戒レベルと気象庁などが発信する警戒レベル相当の防災情報

警戒レベル	5	4	3	2	1
緊急安全確保	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示
避難指示	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示
避難指示	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示
避難指示	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示	避難指示

水害時の炊き出し等は？

浸水時は安全面からまず炊き出しは難しい。新型コロナウイルス感染の問題もあるため、校区の避難所での炊き出しは対応できません。浸水した水がひくまでの2〜3日程度の水や食料などは、自分で用意して避難してください。
 校区の避難所運営本部（向山コミセン）が設置されたい。情報の取りまとめや支援物資の受け渡しなどは対応したい、と考えています。



令和 5 年度（2023年度）選定

中央区 (P1 ～ P5)

★事例① 向山校区の防災対策について

東 区 (P6 ～ P10)

★事例② 託麻南校区防災の取組

西 区 (P11～P12)

★事例③ 中島校区の取組

南 区 (P13～P14)

★事例④ 田迎南校区の取り組み

北 区 (P15～P16)

★事例⑤ 龍田西校区の取組（3 町内自主防災クラブ）

① 向山校区の防災対策について

地域名:中央区向山校区

1 地域の概要

- ・ 地域人口：11,152人（令和5年5月1日時点）
- ・ 世帯数： 5,953世帯
- ・ 高齢化率（65才以上）：22.6%
- ・ 地勢的な特徴： J R熊本駅、市中心部に近い。
九州新幹線開通の前後から集合住宅増の傾向
- ・ 想定される災害：白川の氾濫、地震、台風
- ・ その他：まちづくり委員会を中心に早くから「地域防災」の視点を持ち、熊本地震前年の平成27年度に「校区防災団体連絡協議会」を設立。



2 熊本地震以前、地域で取り組んできたこと

（1） 向山校区まちづくり委員会が地域防災の視点を持つまで

- 平成 9年4月 「地域のふれあいと健康づくり」を目的に、同委員会発足
- 平成20年4月 体制・活動をリニューアル（行事のスリム化・女性の登用）
 - ・ 住んで良かったと思える安心安全のまちづくり」を意識
- 平成20年6月 夏まつりの準備中、5月に起きた中国・四川大地震が話題に。
 - ・ 水害経験者の公民館長
「地震は怖いけど、水害も怖いよ。6.26の時は向山も1 mくらい浸水したよ」
 - ・ 若手
「知らなかった。防災について知ろう」

《課題》

- 校区で予測される災害について知る。**

《取組》

- 平成20年12月 「向山校区の防災を考える講演会」開催



校区の自治会長と民生児童委員を対象に講演会を開催。講師の柿本先生は令和5年現在、熊本大学教授で、同大のくまもと水循環・減災研究教育センター長。この講演会では、「地震が起きそうな断層が近くにあります。ここ向山はゲリラ豪雨のような雨や台風による水害の方がより心配で、危険性が高い」と警告された。

2 熊本地震以前、地域で取り組んできたこと(つづき)

(2) その後の防災についての取組例

- 防災ワークショップ（クロスロードゲームなど、楽しみながら防災学習）
- 避難訓練（各町内の一時集合場所から指定避難所の学校まで）
- 炊出し訓練（避難訓練参加者に食事提供）
- 防災まち歩き→防災・防犯マップづくり
（避難経路＝通学路のためPTA・子ども会も参加して危険箇所チェック）
- 水防災体験(熊本河川国道事務所などが白川河川敷で行うイベントに参加)

(3) 活動が続ける中での気づきから強固な組織づくりへ

まつり・清掃・体育祭・文化祭・どんどや・防犯パトロールなど、地域で協力する行事は「**いざという時の助け合いのチカラ（共助）になる**」と気づく。その後、まちづくり活動の柱として地域防災の視点を意識。



← 住民手作りで行う
向山夏まつり



「ふれあい体育祭」の
バケツリレー競争

平成24年7月の九州北部豪雨では向山小学校も避難所になったが、避難者はわずか数名。災害、特に水害への備えの必要性を痛感。

《課題》

- 地域防災の取組をもっと組織化して、住民への啓発に注力する。

《取組》

- 熊本河川国道事務所に協力依頼し、水害についてのワークショップを開催。
- 公共施設に浸水深シール（6.26水害時の実績または今後の想定浸水）掲示。
- 平成27年度に、校区自治協議会直轄の組織として、校区の自治会及び各種団体で、「向山校区防災団体連絡協議会（略称：向山防災協）」を設立

3 熊本地震以降、地域で取り組んできたことと今後の課題

(1) 熊本地震以降の取組

○平成28年4月 熊本地震発生直後から避難所運営

- ・向山防災協会は発足したばかり。各係の分担や避難所運営などは未知数だったが、江南中学校に本部を置き、向山小と江南中の避難者の保護と炊き出し（1日2食）を実施。
- ・同年4月14日夜～5月8日、住民主体で学校や市職員と連携。
- ・炊出しは、中学校の家庭科調理室を利用して衛生管理を徹底。
- ・トイレの水は、プールの中・高校生たちが運んでくれた。
- ・全国から届いた支援物資や自衛隊の協力で頑張れた。

○平成28年6月 熊本地震の反省・改善のため校区独自でワークショップ開催

《課題》

- 備蓄品不足の心配
- 連絡体制の整備
- 避難所運営の方法



近隣校区の住民や市職員も参加し、熊本地震で良かったことや今後の反省点などを付箋紙に記入していく方法で、どんどん意見を出し合い、校区内で井戸があるところを把握する必要性なども指摘された。

《取組》

平成28年8月～29年3月

○**震災直後の平成28年5月に助成金を申請して、備蓄倉庫を設置**

水・アルファ化米、おむつ、消毒液などを保管する倉庫を日本財団の助成金を活用して、江南中学校敷地内に設置し、物資を保管。

併せて、リーフレット「向山**「でくるしこ」**防災のススメ」も作成配布。
でくるしこは「できることをできるだけでよい」という向山のモットー

○内閣府「地区防災計画支援モデル事業」を受託（熊本県内初）

熊本大学の竹内裕希子教授（当時は准教授）のご指導のもと、**連絡体制の構築や避難所ルール**などをみんなで決めた。

その際、方法論として以下を学んだ。

- ①課題の優先順位を決めて取り組む
- ②**PDCA（計画→実行→チェック→改善）のサイクルで取組を継続**する
- ③優先順位の合意を図る方法
 - ・参加者各自の付箋記入方式で、参加者全員に意見表出の機会を提供。
 - ・その後、まとめた提案に、参加者各自で持つ「いいね」シール（1人数点）を貼って、優先事項の合意をとる。

○平成29年4月 熊本市と協働で、災害時避難所開設訓練を実施。
以降、毎年、市と協働して「震災時対処訓練」の実施を継続中

3 熊本地震以降、地域で取り組んできたことと今後の課題(つづき)

(2) 「校区防災連絡会」・「避難所運営委員会」と組織の整合性を図る。

- 平成29年度 地震前に独自に組織した「向山校区防災団体連絡協議会」の規約を見直し、市が取り組む「校区防災連絡会」・「避難所運営委員会」との組織の整合性を図った。
- 平成30年5月 改めて「向山校区防災団体連絡協議会（向山防災協）」及び「向山校区避難所運営委員会」を正式に設立

《課題》

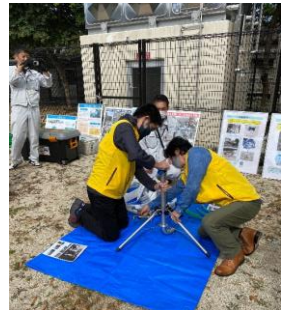
- 向山小と江南中にある避難所の運営委員のなり手不足

《取組》

- 避難所運営委員会本部を向山コミセンに置き、各避難場所に総務係を派遣。
- 情報班・物資班など、その他のスタッフは避難所運営委員会本部で一元化

(3) 平成31年（令和元年）以降の取組の事例

- 水害研修会実施（避難訓練に集まった校区住民を対象）
- 水害啓発のチラシ作成配布（コロナ禍での諸注意含む）
- 災害時の連絡体制の構築と見直し
 - ・電話のほか、LINE・ショートメッセージ・メールを活用
 - ・迅速・確実な連絡方法を訓練の都度に検証・見直し
- マンホールトイレの設置・貯水機能付き給水管開栓訓練



(4) 今後の重点課題と取組

《課題》

- マイタイムラインの普及
- 記憶の伝承



← マイタイムラインづくりを支援

《取組》

○早めの避難行動計画として、「マイタイムライン」を重視

地区防災計画の策定以来、関係を深めてきた熊本大学の学生ボランティアに協力を仰ぎ、水防災体験や校区の世安地区にある地元企業と連携した「よやす未来キャンパス」（仕事と防災をテーマに令和5年8月に初開催）で、マイタイムラインづくりを支援。今後も機会をつくり、実践者増を目指す。

○6.26水害から70周年を迎えた令和5年度における伝承の試み

- ・向山公民館主催の「夏休み子ども映画会」で、6.26水害の動画上映を支援。
- ・10月の水防災体験で6.26水害の体験談を集める「水害アーカイブ作成支援」を提案し、実施。今後も同様の活動を続けていく。

↑ マンホールトイレ組立や給水管の開栓訓練

4 参考資料など

- ・ 向山「**でくるしこ**」防災の歩み その1～5
発行：向山校区まちづくり委員会
- ・ 自主防災活動事例集 熊本地震対応編
[50087.pdf \(pref.kumamoto.jp\)](http://50087.pdf(pref.kumamoto.jp))
発行：熊本県（平成30年3月）
- ・ 水害シーズン前に配布している回覧板（令和3年度版）

水害に備えましょう！

向山防災
回覧

向山校区は水害が心配

熊本市のハザードマップでは、0.5～3mの浸水が想定されています。

雨や台風の進路に注意！

向山校区で雨が降っていなくても、阿蘇に大雨が降ると、2～3時間で向山校区の白川は増水します。

※川の様子を見に行くのは危険です。

冠水した道路を歩くのは危険！

水深が15cmほどでも流れが速いと歩けません。マンホールのふたが水圧ではずれている場合もあります。

新型コロナウイルス対策も！

災害時の非常持ち出し袋に、マスクや体温計、消毒液（シート）なども、自分で用意した方が安心です。

できるだけ早く安全な避難先へ！

- ①自宅（2階以上の部屋へ）
- ②安全な親せきや知人宅・ホテルなど
- ③熊本市が風水害時に指定している
自主避難先で、向山校区に近いのは、
五福公民館・大江公民館

※古い木造家屋は浸水の状況によっては、2階以上でも危険なこともあります。

水害時に向山小や江南中が緊急避難場所として開くのは、③の五福公民館などの後です。体育館や校舎の2階以上などが開かれても、新型コロナウイルス感染の心配もあり、熊本地震の時のようにたくさんの人は避難できません。できるだけ、①自宅2階や②親せき宅などの安全な場所に避難することを優先してください。

熊本市が発令する新しい警戒レベルと気象庁などが発信する警戒レベル相当の防災情報

警戒レベル		新たな避難情報等		防災気象情報（警戒レベル相当情報）	
				浸水の情報（河川）	土砂災害の情報（雨）
令和3年5月20日から変更	5	緊急安全確保※1		5 相当	氾濫発生情報 大雨特別警報（土砂災害）
	4	避難指示※2		4	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報
	3	高齢者等避難※3		3	氾濫警戒情報 洪水警報 大雨警報
	2	大雨・洪水・高潮注意報（気象庁）		2 相当	氾濫注意情報
	1	早期注意情報（気象庁）		1 相当	—

水害時の炊き出し等は？

浸水時は衛生面からすぐの炊き出しは難しいし、新型コロナウイルス感染の問題もあるため、校区の避難所での炊き出しは対応できません。浸水した水がひくまでの2～3日分程度の水や食料などは、自分で用意して避難してください。

校区の避難所運営本部（向山コミセン）が設置されしだい、情報の取りまとめや支援物資の受け渡しなどは対応したい、と考えています。

② 託麻南校区防災の取組

地域名：東区託麻南校区

1 地域の概要（R5.8.1現在）

- 【地域人口】14,597人（男：7,087人、女：7,510人）
- 【世帯数】6,406世帯
- 【高齢化率】23.2%（65歳以上）
- 【地勢的な特徴】東区の北部に位置し、東側は九州自動車道、中央を県道熊本空港線が通る住宅街
- 【想定される災害】藻器堀川や健軍川の増水による氾濫、冠水
- 【その他】自治会や各種団体の連携が取れており、各団体の責任感も強く、地域のイベントや防災訓練などへの参加者が多い。



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと

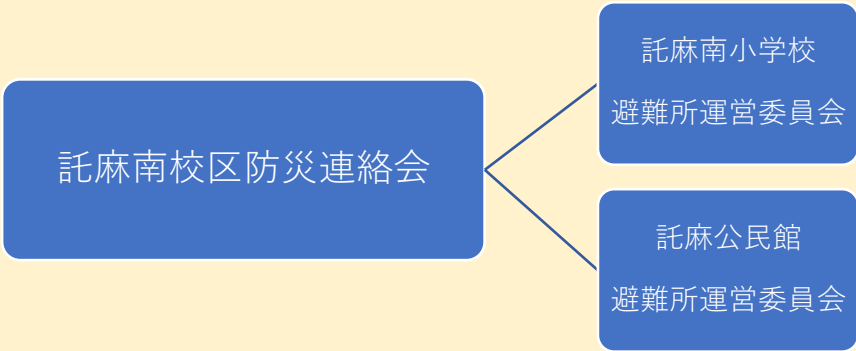
(1) 校区防災連絡会及び避難所運営委員会の設置について

平成28年4月に震度7の地震が2回発生した熊本地震の際の防災対応について（本市では最大で震度6強を記録）、各町内の被災状況や各避難所の情報把握の不足、避難者への支援の不十分、物資支給体制の不備、避難誘導体制の不備等、改善すべき多くの課題を残した。

そこで、住民のアンケート等もふまえ、平成30年8月に、当校区で行政と地域団体が協力して被災者支援を行う託麻南校区防災連絡会を組織し、防災対策を施すこととした。

また、避難所が開設される託麻南小学校と託麻公民館に避難所運営委員会を設置し、避難所運営にあたることとした。

託麻南校区自治協議会



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

(2) 今までの取り組みについて

- ・ 2018年 8月 校区単位で行政と市民（地域団体）が協力して被災者支援の方法を決め実践できる託麻南校区防災連絡会を設置。
- ・ 2019年 8月 各避難所（託麻南小学校と託麻公民館）に避難所運営委員会を設置。
- ・ 2020年 3月 各町内から選出された避難所運営委員で協議し、避難所運営マニュアルを作成
- ・ 2021年 3月 避難所を開設する具体的な作業内容をまとめた開設キット、作業手順書を作成
- ・ 2021年11月 避難所開設模擬訓練を実施
- ・ 2022年 3月 訓練実施後アンケートを実施し改善点や今後の取り組みについての意見を集約
- ・ 2022年10月 避難所開設模擬訓練を実施

※以降は、熊本市の震災対処訓練に併せて、託麻南校区避難所開設訓練を実施している。

(3) 避難所運営委員会の業務について

① 平常時の活動業務

- ・ 避難所運営委員会の運営に関すること。
- ・ 避難所開設・運営マニュアルを作成し、必要に応じて訂正・補遺を行うこと。
- ・ 避難所に必要な資機材、備蓄品の維持管理に関すること。
- ・ 災害時要配慮者支援を含めた地域の連絡体制の確立に関すること。
- ・ 避難所開設・運営等の訓練の実施に関すること。
- ・ その他、運営委員会の目的達成に必要な活動に関すること。

② 災害時の活動業務

- ・ 避難所開設・運営マニュアルに基づく避難所の開設と運営に関すること。
- ・ 地域における安否情報・被害状況の集約に関すること。
- ・ その他、避難所運営及び避難に関し必要な事項に関すること。



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

(4) 早稲田大学院生視察受け入れについて

令和4年10月16日(日) 早稲田大学院生2名が、災害時に太陽光発電などの再生エネルギーを活用し、避難所と学校運営を両立するためのガイドラインや電力利用計画の作成のため、託麻南小学校避難所訓練を視察し意見交換会を行った。

(早稲田大学院生のメッセージ)

① 避難訓練について

どの被災地にも共通しているのは、災害が発生してから避難訓練や対策を行うことが多い。また、被災者が大きな不安を感じるのは、災害というものは「非日常的」な事で、避難所に避難すること自体であると考え。よって、防災の取り組みを「日常的な取り組み」の一つとして行うことが出来れば、被災者の不安を少しでも無くす事につながるのではないかと感じた。

② 良かった点や今後の改良点について

- ・市町村の災害担当だけでなく、地域の方も避難所の開設手順を学び、実務的な訓練を行っているのが良いと感じた。
- ・マニュアル内容の読み合わせだけではなく例えば、鍵の開け閉めなど全ての行動計画を実際に訓練の中に組み込むことが必要と感じた。東京の訓練に参加した際、鍵などの場所を知らない人がほとんどだった。
- ・学校の年度始めで防災組織の体制が整わない時期に発災してもスムーズに避難所運営ができるよう引継ぎ書などを入念に準備しておくが良いと感じた。
- ・どの班の仕事もできるようにしておく為に訓練の時からローテーションで全班の作業内容を体験すると良いと感じた。

早稲田大学院生



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと(続き)

(5)「県営八反田団地 防災(水害)訓練」について(託麻南校区 6 町内)

① 日時・参加者について

- ・令和4年11月20日(日) 10:00～
- ・8棟ある団地より地域住民の約50名が参加



県営八反田団地

② 訓練内容について

ア 水害を想定した垂直避難訓練

- ・県営団地を管理している熊本県より、高層階の空き部屋について、水害時は利用しても良いとの話を受け、高層階へ移動する避難訓練を実施

イ 身近なもので担架作成など

- ・毛布と物干し竿を使った担架の作成及び搬送方法
- ・一人でできる要支援者・負傷者の搬送方法

ウ アルファ米の炊き出し訓練

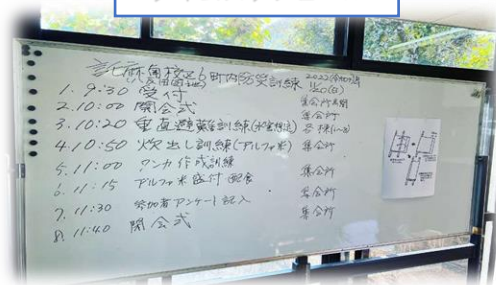
担架作成及び搬出方法



③「県営八反田団地 防災訓練」の今後の課題

- ・今回は、水害訓練をメインに行ったが、特殊火災訓練も必要。
- ・地震災害等の知識や災害に対する備えへの準備などの研修が必要。

タイムスケジュール



炊き出し訓練



全体写真



3 現在の課題と今後の取組

(1) 現在の課題

- ① 託麻南校区防災連絡会の中心メンバーの高齢化への対応
団塊の世代が高齢化になった現在、地域活動のリーダーも高齢化になっている。地域において幅広く防災活動をするには、若い方のリーダーとしての参画は必要であるが、若い方は仕事もあり、防災活動の中心メンバーのなり手が居ないのが現状。
- ② 託麻南校区での熊本地震の記憶や経験が風化してきている。
- ③ 託麻南校区内には、一級河川である藻器堀川、健軍川があり、水害の恐れがある。

訓練の様子



藻器堀川(河川工事中)



(2) 今後の取組

- ・若い方の地域（防災）活動への参加、理解を促し、地域（防災）活動の新たな担い手となる若手を発掘する。

③ 中島校区の取組

地域名:西区 中島校区

1 地域の概要

【地域人口】 3961人（2023年5月時点）

【世帯数】 1706世帯【高齢化率】 31.0%（65歳以上）

【地勢的な特徴】

中島校区は西区の南西部に位置し、校区の中央部を東西に主要地方道熊本港線が横断している。また西側は有明海に面し、北側に、一級河川の白川、南側に二級河川の除川（よけかわ）が流れている。

【想定される災害】

河川の氾濫、津波・高潮災害、地震による液状化

【その他、特筆すべき地域の特徴】

校区内の干拓地には田畑が広がり、野菜の栽培が盛んで、ハウスによる早出しレンコンなどが栽培されている。また、有明海の干潟では、海苔の養殖やアサリの採貝も行われている。



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと

【課題】

中島校区は、西側を海に、南北を川に囲まれ、津波・高潮・洪水による浸水に危険度が非常に高く、早期の避難が必要な地域であるといえる。また、高潮・津波災害については早急な避難対策が必要であることも理解しておかなければならない。

【課題解決に向けた取組の概要】

- ①校区防災連絡会・避難所運営委員会の設立を機に、定期的な校区防災連絡会、避難所運営委員会を開催した。
- ②避難所運営委員会においては、避難所（中島小学校）の運営マニュアル作成を行うとともに、避難所開設・運営、避難所運営に係る資機材の取り扱い習熟訓練を行った。
- ③校区全体の防災意識の高揚及び地域防災力の向上を目的に、マンホールトイレ設置訓練、救急救命処置、避難及び避難誘導訓練、消火訓練、などを盛り込み、女性消防団員及び自主防災クラブの連携のもと防災訓練を継続的に実施。
- ④校区防災の役員等32名を対象に、防災士とのつながりを深めることを目的に、ワークショップを行い、避難所における心得を学び、避難所のレイアウト作成、避難所運営ゲーム等により親睦を深めた。

【特に工夫してきた点】

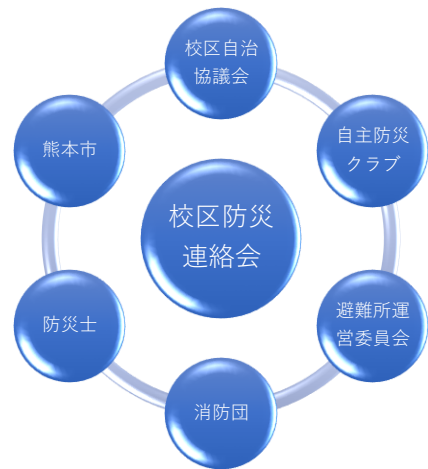
- ①各組織の設立に伴い、各組織の役割を理解し今後の取組などを年間の計画にまとめた。
- ②避難所マニュアルをもとに訓練を行い、マニュアルを見直し改良を加えた。
- ③顔の見える関係づくりを主眼とした地域住民参加型の防災訓練を実施することで、地域と防災機関との連携を確認した。
- ④防災士とワークショップを行い避難所レイアウト、運営について考察した。

3 現在の課題と今後の取組

【現在課題として捉えていること】

熊本市の各種ハザードマップによれば、中島校区においては、津波・高潮・洪水時の浸水と、主に水害によるものが想定されることから、地域住民の生命を守るうえにおいて次のことが課題となる。

- ①津波・高潮発生時の避難対策
- ②災害発生時の情報の伝達および関係機関との連携
- ③高齢者等、災害弱者への配慮
- ④地域版ハザードマップの作成推進



【課題解決に向けた今後の取り組み】

- ①中島校区の地理的状況から、津波・高潮発生時には多くの逃げ遅れがいるものと予測されることから、垂直避難、広域避難を主眼とする訓練の取組。
- ②災害時における情報の伝達の遅れは地域住民の生死に直結することから、自治会、校区防災連絡会、消防団、自主防災クラブ、熊本市（区）との連携を含めた情報の伝達を主眼とした訓練等の取組。
- ③高齢化率が**31.0%**と高いことから、自治協議会、校区防災連絡会、自主防災クラブ、消防団など関係機関が協力した自力避難困難者に対する避難の方法と対策を行う。
- ④地域版ハザードマップは、災害時の地域情報を共有する重要なツールであることから、校区防災連絡会から各自治会へ、ハザードマップの作成及び見直しの周知徹底。

4 参考資料など

【これまでの取組状況】

〈平成29年度〉

- 4月16日 中島校区避難訓練
(避難訓練、地震・煙体験、消火・救命処置訓練)

〈平成30年度〉

- 4月15日 防災士会によるワークショップ（地域団体役員32名）

〈令和元年度（平成31年度）〉

- 4月16日 校区防災連絡会開催
4月20日 中島校区避難訓練
講演 ささえりあ熊本西、ゆたか学園
(避難所受付、分散備蓄倉庫確認、講演、食料配布訓練)
2月1日 校区防災連絡会

〈令和2年度〉

- 12月18日 校区役員研修
(分散備蓄倉庫確認、備品関係取り扱い訓練)

〈令和3年度〉新型コロナ感染症により活動自粛

〈令和4年度〉新型コロナ感染症により活動自粛

〈令和5年度〉

- 6月24日 校区防災連絡会（地域版ハザードマップ推進）
8月20日 中島校区防災訓練
(避難・消火・救急訓練、分散備蓄倉庫確認、マンホールトイレ設置)



④ 田迎南校区の取り組み

地域名:田迎南校区

1 地域の概要

- 【面積】 1.68km²
- 【地域人口】 9,113人（令和4年4月1日時点。以下同じ）
- 【世帯数】 3,602世帯 【高齢化率】 18.8%（65歳以上）
- 【地勢的特徴】

田迎南校区は南区の北東側に位置し東区との境界に接している。校区の北側は国道57号（東バイパス）に面し、一般県道熊本浜線（旧浜線）が校区の中央を縦断している。

南側には加勢川が流れている。

- 【想定される災害】

河川の氾濫、地震

- 【その他】

校区内は県道熊本浜線沿いに住宅が密集しており、今後も住宅開発が行われ人口の増加が予想されている。

- 【校区内の建物がある指定緊急避難場所】

田迎南小学校・浜線健康パーク



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと

- 【熊本地震以降の課題】

田迎南校区は旧住宅地の中に大規模な住宅開発が進んだことから、地域住民同士の交流促進を図ることが課題である。

また、校区の南側には加勢川が流れており、洪水における浸水の危険性が高く、早期の避難が必要な地域である。また、住宅密集地も多く、地震の際の倒壊危険や大規模火災にも注意が必要である。

- 【課題解決に向けた取り組み①】

○田迎南校区住民安心メール

避難所開設や防災情報をいち早く校区住民に伝えるため、平成30年（2018年）から、「田迎南校区住民安心メール」を立ち上げた。

現在では、登録者が約1000名となり、多くの住民に対しリアルタイムな情報を提供している。

- 【課題解決に向けた取り組み②】

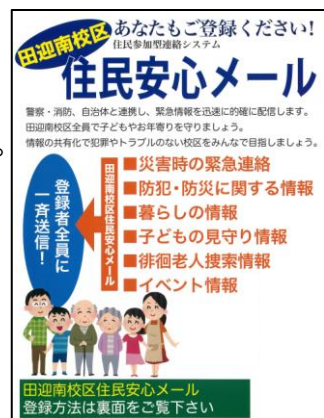
○住民参加型の防災訓練

熊本地震では、田迎南校区の避難所に多くの住民が避難した経験を踏まえ、毎年、多くの住民が参加し、避難所開設、炊出し、救急法など大規模な防災訓練を実施している。

- 【課題解決に向けた取り組み③】

○マイタイムラインの普及啓発

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、住民参加型の訓練が実施出来なかったため、他の校区に先駆けてマイタイムラインの啓発を呼び掛けるチラシを約1万枚作成し、校区内の住民に配布することにより、防災意識の向上のための取り組みを継続的に行っている。



※田迎南校区自治協議会作成

3 現在の課題と今後の取組

【現在の課題】

新型コロナウイルス感染症の影響により、以前開催していた地域の防災訓練以外にも「町民運動会」や「どんどこや」などの校区内行事が実施できなくなったことにより、住民同士の絆が希薄化している。

地域防災力においては、住民同士のつながりが最も重要と考えているため、今後どのようにして住民同士が集う場を増やしていくかが課題である。

また、校区内の自主防災クラブや防災士が、校区防災連絡会と連携して活動を行うことが重要である。

【今後の取組】

- ・住民同士の絆を深める場として「校区夏祭り」を今年度開催したため、今後も継続して実施し、住民同士のつながりを強める取り組みを行う。
- ・住民安心メールをより多くの住民に普及させるとともに、メール操作を行えない高齢者等への対応として電話連絡網などの充実強化を図る。
- ・熊本地震やその後の防災訓練の経験を生かして、田迎南小学校校区内の避難所運営マニュアルを作成する。
- ・校区内に住んでいる防災士の方を有効に活用するため、まずは校区防災連絡会の会議に参加してもらい、防災訓練の企画や運営に携わってもらうことで地域防災力向上を図る。
- ・災害時に避難等で支援が必要な方への対応を校区内で検討する。



※田迎南校区防災連絡会作成

4 参考資料など

【これまでの主な訓練実績】

- ・平成30年11月11日 田迎南校区防災訓練 約170名参加
避難所開設訓練、炊き出し訓練、救急法、段ボールベッド体験
貯水機能付き給水管取扱訓練等
- ・令和元年11月10日 親子防災訓練 校区住民等 約200名参加
防災講話、起震車体験、消火訓練、VR消火体験等
- ・令和2年 マイタイムライン普及啓発チラシ作成
- ・令和3年、4年 震災対処実働訓練



⑤ 龍田西校区の取組(3町内自主防災クラブ)

地域名：龍田西校区

1 地域の概要

【地域人口】6,515人（令和5年4月1日時点。以下同じ）
【世帯数】2,789世帯 【高齢化率】21.9%（65歳以上）
【地勢的な特徴】

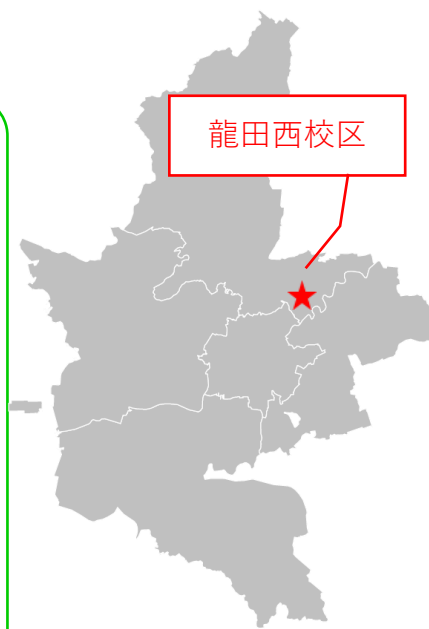
龍田西校区は北区の南東部に位置しており、校区の西側には立田山、南側には白川が流れており、全体的に起伏に富んだ地形となっている。

【想定される災害】

地震、液状化、河川の氾濫、浸水、土砂、台風

【その他、特筆すべき地域の特徴】

平成28年に龍田校区から分離した校区であり、校区としての歴史は新しい。高齢化率は低く、若い世代が多い。



2 熊本地震以降、地域で取り組んできたこと

【課題】

龍田西校区3町内では、防災組織がなかったことから、地域防災力の向上を目的とした組織の結成が必要であった。

【課題解決に向けた取組】

令和4年3月16日に自主防災クラブ（通称：RSたつだ）を設立。これを機に、地域で災害に対応できるよう防災研修や防災訓練を実施した。

【工夫した点】

- ・地域でどのような災害が考えられるかを検証
- ・研修及び訓練目的を設定し、災害時の対応を明確化
- ・町内における避難地図を作成
- ・災害時の連絡手段を確立
- ・高齢者及び要配慮者を避難所まで移送する手段を確立
- ・外部講師を招き、避難所運営の強化
- ・町内だけでなく校区と連携



3 現在の課題と今後の取組

【現在の課題として捉えていること】

- ・ 町内における防災士の育成
- ・ 女性の活躍
- ・ 次世代への伝達



【今後取り組んでいきたいこと】

- ・ 平時から災害に備えることができる行動マニュアルの作成
- ・ 校区防災連絡会との連携強化及び校区全体の防災力向上



4 参考資料など

【訓練実施状況】

令和3年度 9月12日 防災講話（外部講師）
「自主防災クラブ設立に向けた地域防災について」

令和4年度 7月10日 防災研修会
（災害時の地域課題、連絡手段、高齢者及び要支援者への対応等）

9月4日 防災訓練：龍田西校区全体
（避難所運営、マンホールトイレ、貯水機能付給水管操作訓練等）

11月6日 防災訓練
（避難訓練、炊き出し、資機材取扱い等）

3月19日 防災講話（外部講師）
「熊本地震を踏まえた住民共助による避難所運営について」

令和5年度 6月3日 防災講話：龍田西校区全体（外部講師）
「災害に対する覚悟と準備について」

9月3日 防災訓練：龍田西校区全体
（情報伝達、避難訓練、消火・応急救護訓練等）

【 お問い合わせ 】

政策局危機管理防災部防災対策課	0 9 6 - 3 2 8 - 2 3 6 0
中央区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 2 8 - 2 6 1 0
東区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 6 7 - 9 1 2 1
西区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 2 9 - 1 1 4 2
南区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 3 5 7 - 4 1 1 2
北区役所区民部総務企画課	0 9 6 - 2 7 2 - 1 1 1 0